

世界の山岳地域の持続的発展：山岳国キルギスからの問題解決と貢献

アイベックス・アイダラリエフ（キルギス国際大学学長）
キルギス共和国大統領の行政内閣の筆頭大臣の議長のアドバイザー
キルギス共和国の科学の国家アカデミー会員、特命全権大使

世界の山岳地域の重要性は、1992年にリオデジャネイロの国際地球サミット以来、認識されている。アジェンダ21は特別に山岳に示した13章を含んでいる。今日、地球上の25%となる山岳には、世界人口の26%の家があり、人類半分のクリーンな水の源泉である。加えて、山岳は高いレベルの生物学的文化的多様性によって特徴づけられる。

山岳居住者は、厳しい気候状況のような攻撃に、自然の山岳生態系や科学的インパクトに受けやすく、低い農業的生産性、生活を維持するエネルギーコストと高い必然性、情報の隔離、社会的・経済的アクセスの限界などに直面している。これらの要因は、山岳の経済活動に、不毛な主張、社会的対立、移住、そして政治的不安定などの複雑性に寄与している。

山岳のエコシステムの重要性とそれらの役割にあるとして、2002年にキルギスのイニシアチブによって、国連において国際山岳年と宣言した。この年の最後のイベントは、ビシュケフ世界山岳サミットであった。国際山岳年とビシュケフ世界山岳サミットの成果となった。

- ・山岳地域の持続的発展における主要な国際的な文章であるビシュケフ山岳プラットフォームの採用
- ・国際的山岳パートナーシッププログラムは認められた。このプログラムの任務として、国連の食糧や農業的組織までに影響力を及ぼした。（FAO、ローマクラブ）
- ・貧しい山岳国の持続的発展について、国連総会の8つの決議案では、彼らの外部からの債務の帳消しに含む、すべての可能な援助を彼らに提供することに推薦することが採用された。
- ・2002年1月30日の国連決議で、12月11日を国際山岳年として宣言した。
- ・中央アジア山岳憲章（カザフスタン、キルギス、タジキスタン）としてサインした。
- ・持続的山岳の発展のための国家戦略と活動プランは推進された。
- ・持続的山岳の発展のための地域的戦略と活動プランは推進された。（カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、中国新疆ウイグル自治区）
- ・キルギス共和国山岳領土法の採用（2002）
- ・国際的分類は、「高い輸送価格を持つ隔離された山岳国」「黄金の発展ゴール達成のための実践的計画」などの定義を承認した。（New-York,2005）
- ・多くの本と普及する資料は発行され、そして会議は国連大学、FAO、UNDP、UNEP、その他の国際的機関の援助で開催されてきた。

昨年、キルギス共和国のサデーラ・ザハパロブ大統領の主導的提案に基づいて、国連総会は、キルギス共和国政府の提案で持続的山岳発展の国際年として、2022年を宣言した。「2022年を持続的山岳発展の国際年」（A/76 /L.28）として一致した決議は、持続的山岳発展の重要視と山岳エコシステムの持続的利用と保護の認識を増やすため、そして国際年の遵守のため、総会と招待したメンバー国、国連組織、他の国際機構やステイクホルダー、市民社会、個人セクター、学会などによって採用された。

それ以上に、キルギス共和国は、許されるならば持続的山岳発展の5周年を催す国連決議を承認することに主導権を取った。

- ・知識を高め、世界的コミュニティの注意を捉えること
- ・地域的、国際的な協力を調和させること
- ・情報と経験を成功裏に交換すること
 - ・山岳エリアの保護とそれらの持続的そして公平な発展に関する下位と中間の地域的同意をサポートすること
- ・地域的、国家的、国際的組織の活動を元気づけること
- ・持続的山岳発展の実行のため世界的活動を調和させること

（訳：水嶋 一雄）